

あとがき

本記録誌は、東日本大震災の発災から10年間の仙台市精神保健福祉総合センターの心のケア活動の実績をまとめたものです。当センターの被災者支援は現在も継続して行っているため、記録誌の内容は私たちが行った心のケア活動の総括的な内容ではなく、支援活動の実績を中心にまとめました。

10年間の心のケア活動を行っていくなかで、私たちが被災者支援の中で問われたことは、いかに被災者のための支援を行うかということだけではなく、当センターが支援機関としてどうあるべきか、そして精神保健福祉センターとしてどう地域支援や技術支援を行っていくべきかという被災者支援の枠を超えた大きなテーマであったと思います。そして、その答えを見つけるべく、私たちは考え、話し合い、そして実行し続けました。その結果、この10年間で、当センターは支援の在り方のみならず、組織としても大きな変貌を遂げました。そして、震災前よりも質の高い市民へのメンタルヘルス支援を行うことができるようになったと考えています。

現在、国内では地震、水害、そしてコロナ禍など様々な災害が起り、そういった大規模災害の被災者に対する心のケアへの関心や注目は大きくなっています。そのようななか、私たちが行ったこの10年間の活動は、被災者の心のケアを考える際の貴重な経験であり、本記録誌が今後の災害へ備えるための一つの参考になれば幸いと考えています。

最後になりましたが、東日本大震災発災からこの10年間、市内外のたくさんの方々から、暖かい励ましやご支援、ご指導をいただきました。そういった皆様のお力があったからこそ、私たちは被災者の心のケア活動を継続し行うことができたと考えています。この場を借りて深く感謝申し上げます。

仙台市精神保健福祉総合センター
主幹 原田 修一郎

編集委員

林 みづ穂	原田 修一郎	大類 真嗣
小堺 幸	相原 幸	門田 亜希子
君市 祐子	佐伯 涼香	下村 瑞希
野田 承美	細川 護之	